

令和3年度 第1回学校評価委員会報告

日 時 令和3年7月1日（水）午後7時30分

場 所 群馬県歯科医師会館 2階 常務会室

出席者 村山利之委員長、中野玲子委員、高松透浩委員、森島愛一郎委員、高瀬裕志委員、高橋智幸委員、斉藤崇委員、高橋邦夫委員

1 開 会

2 挨拶

村山委員長から令和3年度第1回学校評価委員会の開催について、挨拶が行われた。

3 委員紹介

4 報 告

高橋委員から6月17日（木）の本会定時総会をもって新役員が就任したことに伴い、本評価委員会の設置、目的等について説明等が行われた。前年度より高等教育の修学支援新制度の実施に向け準備を進めていたが、本年4月より本学院が対象機関となった。本委員会では、校内での自己評価を実施し、その結果を受けて、よりよい専門的な教育が行えるよう、教育活動や学校運営の改善を行うものである旨を述べた。

また、先に行われた令和2年度学校評価自己評価集計結果から、今年度の重点目標に掲げる「国家試験合格率」「県内就職率」「定員数の確保」といった評価結果について、資料に基づきを報告した。

令和2年度において重点目標に5つを掲げたが「3」未満が3項目となり厳しい結果となった。特に令和2年度においては、新型コロナウイルスへの対策として、対面授業での感染リスクを出来るだけ避けつつ、効率的な学びの場を提供できるよう講義場所を広いスペースのある本学院に隣接している群馬県歯科医師会館5階大ホールを使用して実施した。講義については、校内実習や臨床実習に十分取り組むことができず、授業の一部は遠隔授業となるなど、学生に対しては変則的なスケジュールの中で国家試験の対策を強いることとなり、今まで以上に手厚いフォローをしたが国家試験合格率100%を達成することが出来な

った。今年度の入学者は授業料、入学検定料の引き下げたことが主な要因で、定員を超える入学者を確保することができた。次年度におきましても県内歯科診療所における「歯科衛生士不足」や「財政基盤の安定」のためにも学生数の確保に努めていくことが報告された。

5 協 議

以上の報告事項を踏まえ協議の結果、歯科衛生士不足や財政基盤の安定、学校の運営面や体制づくり等は、学生の質を高め国家試験合格率100%を目指し、学生を確保することが重要な課題である。学生確保の手段として、オープンキャンパスの開催、学校訪問等が入学に結びついていることから、参加者の増加に努めることやホームページ等の充実を図り歯科衛生士という職業のすばらしさを伝えることで、入口に立つ学生を増加させ学生数の確保に努めて頂きたい旨、発言があった。次年度においても引き続き、入学金及び入学検定料が安価であることなど、保護者並びに学生にアピールして学生数の確保に繋げていただきたい旨、要望があった。

6 その他